

農作物生育・技術情報4号

令和1年(2019年)7月4日

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1. 水稻生育状況(7月1日現在)

品 種	生 育 状 況		
	項 目	R1年	平 年
ななつぼし	草丈(cm)	41.3	42.4
	葉数(葉)	8.6	8.4
	莖数(本/m ²)	499.6	419.8
	幼形期	—	7月6日
	遅速日数	+2	—

生育調査では草丈が若干短く、莖数は、平年を上回っています。

幼穂形成期は、移植の早い所では早まっていますが、6月末の低温により、一般的なほ場では概ね平年並み(7/6前後)と推察されます。

生育は移植の早晚等によりほ場間差の大きい状況となっています。

【技術対策】

○幼穂形成期からの水管理

- ・幼穂形成期から10日間は、水深を徐々に上げ10cm程度の深水とする。ただし、莖数が少ないほ場では幼穂形成期後5日間の水深を5cmとし、分けつを促進する。
- ・幼穂形成期から10日間の水温が25℃以上で耐冷性が向上することから、水温の低下を避けるため、日中は必ず止め水とする。
- ・冷害危険期間(幼穂形成期10日後から7~10日間)は水深を徐々に上げ、最大20cm程度(できるだけ)の深水管理を行う(止め水厳守)。

○幼穂形成期の追肥

- ・ケイ酸追肥で耐冷性を高め、不稔発生の軽減とタンパクを低下させる。
追肥時期：幼穂形成期7日後 資材例・量：ケイカル、ゆめシリカ等20kg/10a

○病虫害防除

- ・いもち病の発生が心配される水田では、遅れないように予防剤を散布する。
- ※一部のほ場で不時出穂の兆候が見られます。その場合、不時出穂した穂ではなく、周りの稲の生育に合わせて管理をしてください。

2. 畑 作

ほ場をよく観察し適期防除作業をしましょう。

(1)ばれいしょ

○疫病防除

20℃前後で湿度が高い状態で多発します。7~10日間隔で定期的に防除を実施しましょう！

○軟腐病防除

25℃前後、多湿条件で多発します。夜間蒸し暑くなったら防除が必要です！

(2)秋まき小麦

出穂30日後より穂水分測定が可能です。ほ場を巡回し収穫順番を決定しましょう。

*赤かび病の多発したほ場は別刈とし、区別して乾燥調整作業を進めましょう。

(3)豆 類

断根しないようにカルチ作業は7月上旬までに終了しましょう。

地力が低い場合や初期生育が劣っている場合には追肥をしましょう。

<追肥の時期と施肥量>

- ・小豆 本葉3葉期~開花始め 窒素5kg
- ・大豆 開花始め 窒素5kg

3. 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト	3月定植：5～6段目収穫中 4月定植：3～4段目収穫中 5月定植：1段目収穫中 6月定植：3～4段目開花 ・灰色かび病、かいよう病、アザミヤ類、窓あき果、花落ち、がく枯等が発生している。	・ハウスビニールのこまめな開閉により適正な温湿度管理に努める。 ・曇雨天時は過度のかん水、追肥は行わない。 ・ベツ中央や茎葉で混み合っている部分を中心に摘葉を行う。
ハウス軟白ねぎ	・3月定植収穫中。 ・ハモグリバエ類、ヌカバエ、萎凋病が発生している。	・ハウス周辺の除草を行う。 ・ヌカバエは高湿度条件下で産卵されるので、降雨後は早めの薬剤防除を行う。
アスパラガス (ハウス立茎)	・萌芽～夏芽収穫始め。 ・アザミヤ類、アブラムシ類が一部で見られる。	・灰色かび病予防で、茎を軽くゆすり、老化花卉を落とす。 ・ハウス内湿度を高めないように換気に努める。 ・ハウス周辺の除草を行う。

* 日高管内でネギアザミウマに対する合成ピレスロイドの抵抗性が確認されています。今後は合成ピレスロイド系薬剤の連用を避け、ローテーション防除を行いましょう。

4. 牧草生育状況（7月1日現在）

作物名	生育状況				農作業	適要
	項目	R1年	平年	遅速日数	収穫期(平年値)	
牧草(2番)	草丈	10.3cm	7.7cm	+3	6/21(6/27)	収穫作業が進んでいる
デントコーン	草丈 葉数	86.2cm 9.3葉	71.3cm 8.6葉	+4		生育はやや進んでいる

牧草の生育を適正にし、牧草割合を高めるため追肥を行いましょう。

- 1) 追肥により、収量が高まります。
- 2) 追肥により、分けつが発生し牧草割合が無追肥より高まります。(雑草の侵入防止)

5. 6～8月は「農薬危害防止月間」です！

◎農薬使用基準を遵守しまししょう。

農薬の使用基準を必ず確認し、適用作物、使用量・濃度、使用時期、総使用回数、使用期限等の基準を厳守しまししょう。

◎農薬の飛散に気をつけまししょう。

露地作物の農薬散布時は隣接畑への飛散に注意しまししょう。

特に、水田防除時は、隣接しているビニールハウスの入口や側面を閉め、農薬の被害防止に努めまししょう。



必ず確認！